

グローバル教育へ iEARN プロジェクト (スロバキアへ愛をこめて* ~絵による国際交流~)

大阪府 高槻市立 第一中学校 美術科教諭 岡崎あかね
E-mail ; akane-okazaki@tcn.zaq.ne.jp

キーワード ユビキタス社会・共感飢餓・国際交流学習・ICT・NPO と学校教育の連携

1. はじめに。

時代は、ユビキタス社会にあって、子どもたちが育つ地盤は、仮想空間と現実の混沌の中で成り立っている。そしてその中で、子どもたちは、「バーチャル世代で育つために直接経験が希薄で仮想空間でしか遊べない。」「自分の思いを伝えることができない子どもたちが増えてきている。」と言われている。

「家庭」という小さな社会の中で「食」という営み一つをとっても、人と人がつながっているのか、心の交流があるのか不透明な「個食・孤食の時代」である。

一方通行の情報があふれている中で、自分の存在価値が見つけられない、友達や家族と心を通わせ、思いを共感しあえない「共感飢餓」状態にある子どもたちが多いのではないか。

子どもたちが描いた絵を交流先の国々に送り、絵を通して交流をすることにより、他者に出会い、海外作品の中の自分の作品と出会う。また、展示会場で ICT を活用しリアルタイムに交流する場面は、子どもたちに充実感を与え、発表能力や自己肯定感を促進する。このように他者の思いを受け入れ、共感する感性を育てることを、ねらいとし、このプロジェクトを NPO/iEARN と連携し行った。

2. 交流の様子。2003 私メッセージから世界へ。 FROM RUSSIA TO JAPAN WITH LOVE

この 2003 年の iEARN (アイアーン) プロジェクト学習は「ロシアから愛をこめて日本へ」というタイトルで、子どもたちの絵が平和大使として各国を旅しながら、出発国の 2002 年 iEARN 国際会議・開催国ロシア(ペテルスブルグ)から、ベラルーシ、ポーランド、ウクライナ、イラン、コソボ、オーストラリア、そして 2003 年 iEARN 国際会議開催国、日本へとゴールする International Traveling Exhibition である。

高槻市立第一中学校は、「総合的な学習の時間」で制作したポスターを送って交流した。

わが校の「総合的な学習の時間」については、

- * 学び方...自ら課題を見つけ、問題解決していく生徒、地球市民としての広い視野、行動できる生徒。
- * 生き方...生命を大切にし違いを認め合える生徒。
- * 仲間と豊かにつながっていける生徒。

の育成を目標に、カリキュラムを組んでいる。

一年次では、「総合的な学習の時間」で人権や、環境問題など自分で課題を見つけ、体験活動や情報を収集し、まとめ、自己発信型スキル学習の一つとして、ポスターや新聞・パワーポイント等で発表している。

FROM RUSSIA TO JAPAN WITH LOVE

<http://www.russia-japan.narod.ru/index.htm>

のHPも ロシアと日本の合作となった。WEBの上では毎日美術展が開かれ、インターネットを通して、相互の美術展にだれでも参加体験できるようになった。メール以外にも、ペテルスブルグとの手紙や絵の交流を続け始めたところでイラク戦争が勃発した。平和でなければ、何も生まれない。平和が何よりも大切であることを実感した。

ロシアの Web Site は互いの民族衣装を着た少女が日本の作品展示前で手を取り合っている。自宅でインターネットにつながるパソコンがある生徒は、これを紹介すると自ら積極的にこのサイトを訪れ、コンタクトを取った。またつながりたい気持ちから、英語で自己紹介文や日本の四季を絵にして送る計画を自ら立て相談に来るなど、創造性や自主性、表現力を養う上で生徒達に与えた効果は大きい。

この取り組みは産経新聞 2003 (H.15) ,7,18 朝刊に掲載された。報道記者のインタビューに一中の生徒たちは、「いろいろな国から送られてきた絵を見ると、世界が身近に感じた。」「まず平和を実現す



産経新聞より

るには、身近にいる仲間のことやクラスのいじめのことを考え、何でも話し合える友達が必要だと思ってポスターのキャッチコピーにした。」と答えた。このような子どもたちの「気づき」が、2004年のiEARN 国際会議開催国スロバキアに向けて、絵による国際交流プロジェクトへと進んでいく原動力となった。

3、2004 アジア発信・私のメッセージから世界へ。

このプロジェクトは、2004iEARN 国際会議開催国スロバキアに向けて、2003年国際会議開催国だった日本から発信し、アジアの国々と共に、International Traveling Exhibition を行いながら、平和の種を共に育てていこうというものである。

テーマは「共生・あなたとわたし・いのちのつながり」である。日本からは、年賀状や「総合的な学習の時間」で「福祉」をテーマに制作したポスター・人権ポスター・英語の絵日記などを展示した。これには、小学校2校、中学校5校、高校1校、計8校の参加があり、2004年1月JICA 兵庫にて台湾、ベトナム、日本をTV会議で結び、リアルタイムで2003年iEARN 国際会議テーマソング「ねがい」合唱や作品展とワークショップを行った。

<http://www.jearn.jp/japan/JICA/040118.html>



台湾・ベトナムとのV/C風景。みんなで合唱中。

テレビ会議を共にした兵庫県八鹿町・青溪中学の子どもたちは「私の絵が飾ってある！みえます！」と感動の言葉を発し、高槻一中の生徒たちは、このテレビ会議を通して、英語が苦手な自分たちに日本語で話しかけてくれた台湾の年配の方とも出会った。その感想に、「今までは間接的な交流だったので、テレビ会議という直接的な交流が出来て、本当によかったです。今回の交流で、私は英語の必要性を強く感じました。それは、向こうにも自分で言葉を伝

えたかったし、私も向こうの言葉を自分の耳で聞いて確かめたかったからです。それができたら、今まで以上に素敵な交流ができると思います。これからもこういう交流に参加していきたいです。」「社会も勉強して今の台湾と過去の歴史も勉強したいです。」と話していた。

3月になり、絵は台湾、国立科学工藝博物館で展示。



<http://www2.jearn.jp/fs/1002/20040328/slovakia-love.htm>

このV/Cは、ベトナム、マレーシア、台湾、日本、4地点を結んだ。これもリアルタイムでバイオリンの生演奏による歌を日本語と英語と中国語でうたいあった。2004年6月現在、絵はベトナムに渡っており、ホーチミン市で美術展が開催されている。

4、この交流から学んだこと。

今回台湾やベトナムなどと共にV/CをNPO・JEARNとの連携で開催して、「子どもの学び」について、さらに考えさせられた。そして「発信」しなくては、何も見る事ができないし、何も知ることができないのだと、あらためて感じた。子どもたちに、「学ぶ意義...自分から発信して人とつながるために、生きて、勉強をすること...」を実感するような取り組みを教師がコーディネートし、実践していくことが必要であるとさらに感じた。

4月になり、今年もまた、新入生が入ってきた。新入生対象の生徒会行事などで生徒たちは、総合的な時間で習ったパワーポイントと国際交流で経験したことをまとめて発表し、参加を募るなど意欲を見せている。

